

遠隔授業の意義と運用

遠隔授業の意義と運用から、学校と教員という職業を問い直す

稲垣 俊介 / 山梨大学 教育学部 准教授

2026年5月20日(月) 1限

本日の問い

不登校が増える中、学校というかたちと、教員という職業をどう構想するか

01 前回の振り返り

リッカード結果と 8 人のコメント

02 A さんの事例

中 2・月 5 日登校・ハイブリッド参加

03 問い 1 学校のかたち

通信制か、共同性の刷新か

04 問い 2 教員のかたち

動画配信か、関わりの厚みか

05 教員という職業

第 1 回と接続して再考する

06 まとめと次回

持ち帰り・振り返り入力・第 6 回予告

前回の振り返り

第4回授業アンケート結果と8人のコメントから

01

振り返り

02

事例

03

問い1

04

問い2

05

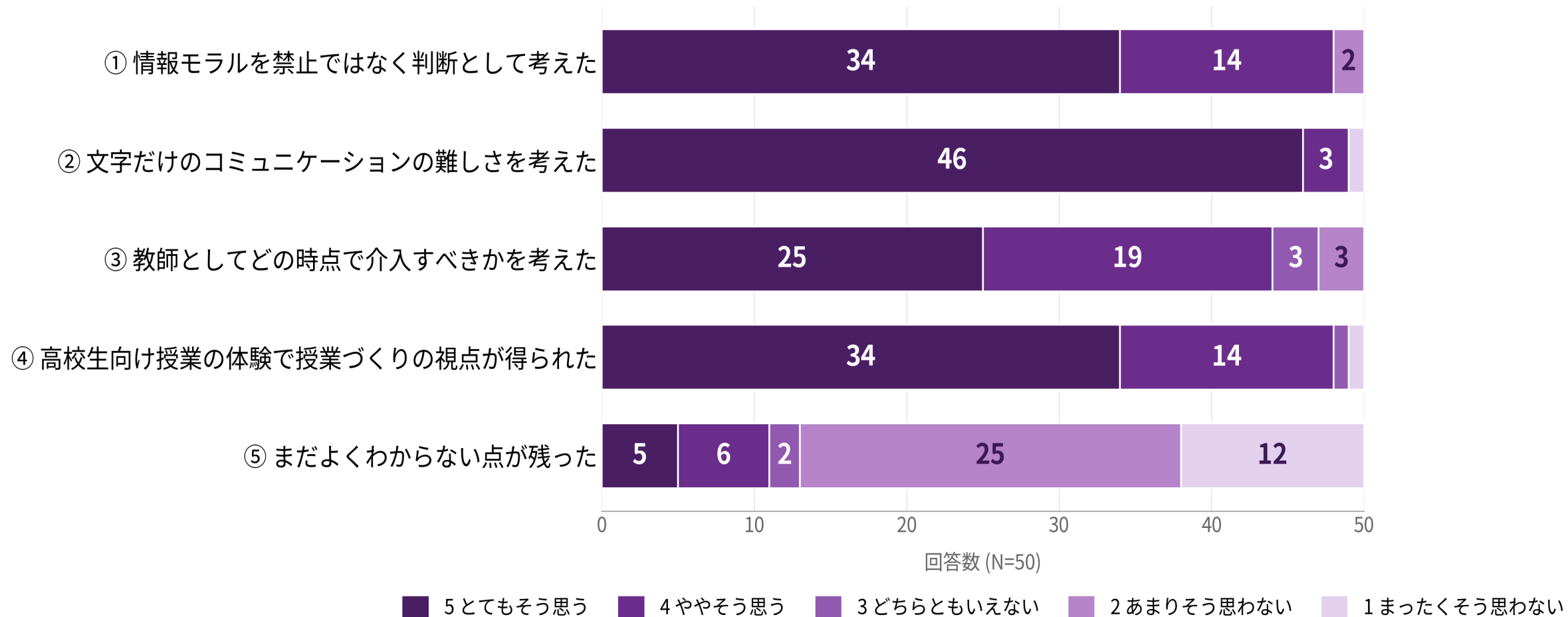
職業

06

まとめ

第 4 回 リッカード結果

5 項目・5 件法・N=50



第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ①

教師の介入と生徒との関係

SNSのトラブルは教師が介入しずらく、気づきにくいところで起きてしまうものだと改めて認識することができた。最初におしゃっていた「教師はウザがられてもよいから介入することが大切」という言葉は、こういった見えない問題を対処していく為にも生徒との関係が重要になってくると思った。その為、生徒との関係を築いていく為に積極的に関わっていくことが大切だと感じた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ②

嫌われる覚悟と試行錯誤

生徒に干渉しすぎることで生徒から嫌われてしまうかもしれないという不安があるが、かといってそれを怖がり、生徒が放置されてしまうようなことがあっては何のために教師がいるのかわからない事態を招いてしまう。また、生徒は毎年かわり、それぞれに違った個性がある。そのため、嫌われる覚悟でこちらから生徒に接触し、試行錯誤の中で徐々に自分なりの正解を見つけていくことが大切であると考えた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ③

感情が読み取れる表現の重要性

対面ではない状況でコミュニケーションを取る際、感情がしっかり読み取れる表現で伝えることが重要であると感じた。とくに教員側からなにかを発信する際は、生徒が怖がったりしないような表現をすることが大事ではないかと感じた。また、いじめなどの深刻な問題につながることもあるため、コミュニケーションツールの使用については自分でしっかりと学び、生徒に伝えられらようになりたいと感じた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ④

犯人特定でなく経緯を踏まえた教育

教師の見えないところで起こるような事案に対して、犯人を特定するのではなく、そこに至った経緯を踏まえて、教育者として教育を施すことの重要性を感じた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ⑤

介入のタイミングと関係性の構築

いじめの線引きはどのように行い、どこで介入するべきなのかという点が非常に難しいと感じた。生徒が求めてこなければ適切な介入のタイミングをうかがうこともできないため、担任としての関係性の構築も重要な土台となることに気が付いた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ⑥

教師は教育者であるという原点

稲垣先生がおっしゃっていた、私たち教師は警察でも裁判官でもなく、あくまでも教育者であるため、犯人を探すのが仕事ではなく、生徒各々のために何ができるのかを考えることが大切だと感じた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ⑦

加害者にも被害者にもさせない

生徒はまだ加害者になるという意識が弱く、被害者に対する意識も低い。そのためコミュニケーションツールの使い方、リテラシーやモラルを伝える必要があると感じた。

第 4 回 (情報モラル教育) への振り返りより

学生コメント ⑧

言葉に責任が生じることを理解させる

私たち大人は今後どうなってしまうのかを予測することができても、子供たちにはそれができないことを理解し、じぶんの言葉には責任が生じることを理解させる必要があるのではないかと考えました。

フォーム入力:氏名 / 学生番号 / 前回振り返り

セクション 1 基本情報と第 4 回の振り返り(Q3)

Q1~Q3	FORM	項目
Q1 氏名(フルネーム)		Q1 氏名 (短文)
Q2 学生番号(半角数字)		Q2 学生番号 (短文)
Q3 第 4 回の振り返り リッカーと 8 人のコメントを見て、 印象に残った場面や考えの変化を自由に書く		Q3 前回振り返り (段落)

▶ いまフォームに入力 第 5 回フォーム → セクション 1 / Q1~Q3 を記入

目安 4 分

Aさんの事例

中学 2 年生・月 5 日登校・家からハイブリッド参加

01

振り返り

02

事例

03

問い 1

04

問い 2

05

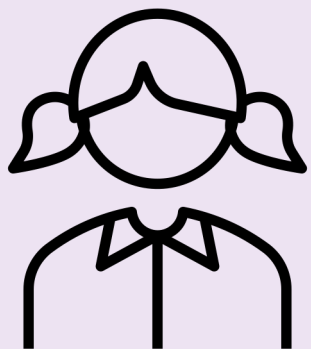
職業

06

まとめ

ある生徒の事例

今日の授業で考える、中学 2 年生の生徒



A さん (仮名)

学年	中学 2 年生 (13 歳)
状況	2 学期から登校が難しくなり、現在は月 5 日程度の登校
環境	GIGA 端末で家からハイブリッド参加が可能
家族	父・母・本人の 3 人家族、学校との連絡は主に母親
担任	あなたは 4 月から担任。関係づくりはこれから

A さん本人と保護者、それぞれの言葉

本人と保護者の願いは、必ずしも一致しない

Aさん本人の言葉

- ・「教室に戻りたい気持ちはある」
- ・「でも今日もうまく行けないと思う」
- ・「気を遣わないでほしい」

保護者の言葉

- ・「もう少し家で休ませたい」
- ・「無理に登校刺激はしないでほしい」
- ・「でも気にかけてもらえると安心する」

フォーム入力:Aさんを見て

セクション 2 Q4 A さんへの最初の応答

Q4

FORM

Aさんの様子と保護者の言葉を読んで、まず何を感じましたか。自由に書いてください。

視点(自由)

A 学校という場について

B 教員の関わり方について

C その他、率直に感じたこと

▶ フォームに入力 第 5 回フォーム → セクション 2 / Q4 を記入

目安 3 分

A さんを見て、感じたことを共有

A さんの状況と本人・保護者の言葉について、感じたことを隣の人と話す

1

本人の言葉から

- ・ 教室に戻りたい
- ・ 気を遣わないで
- ・ 言葉の裏にあるもの

2

保護者の言葉から

- ・ 登校刺激しないで
- ・ 気にかけて安心
- ・ 本人とのズレ

3

自分が担任なら

- ・ 4 月から関係づくり
- ・ どこから始めるか
- ・ まず何をするか

学校のかたち

通信制を広げるか、共同性を立て直すか

01

振り返り

02

事例

03

問い 1

04

問い 2

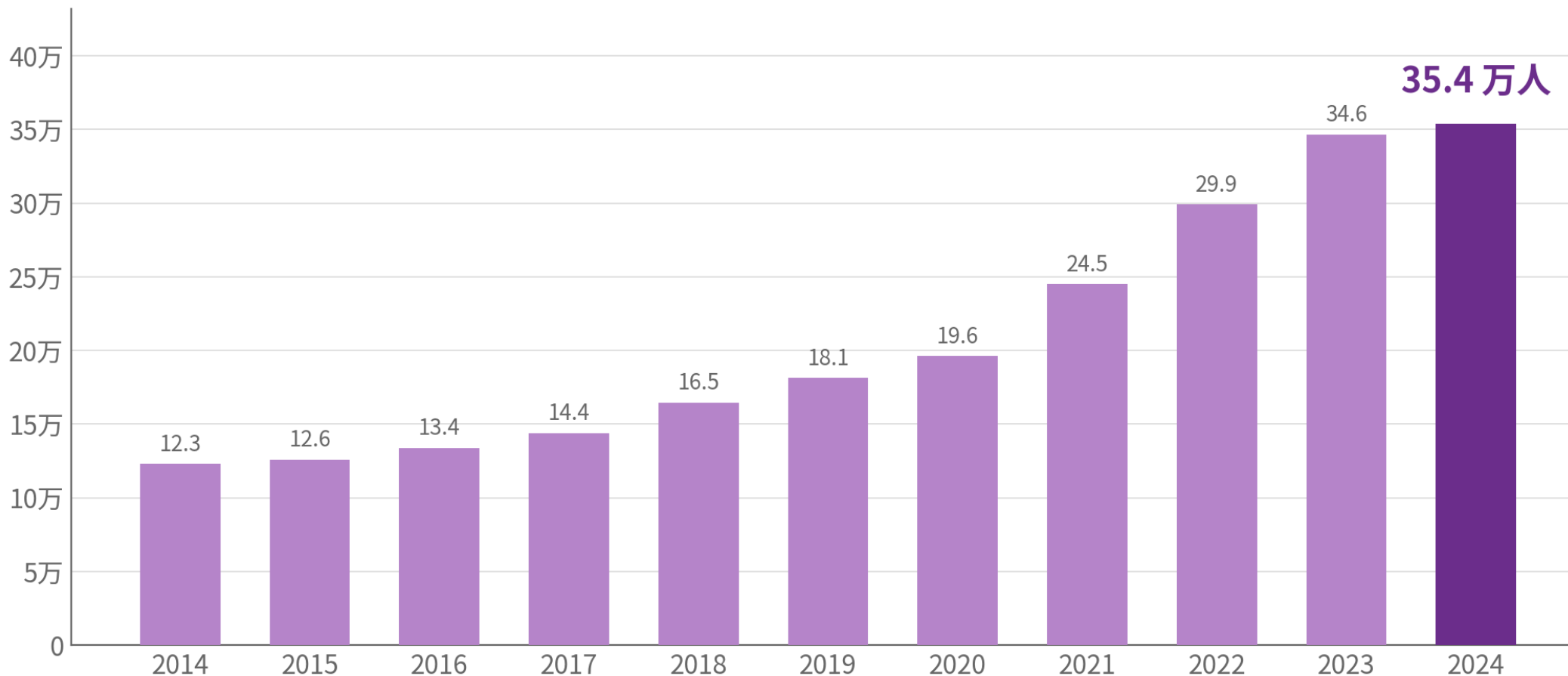
05

職業

06

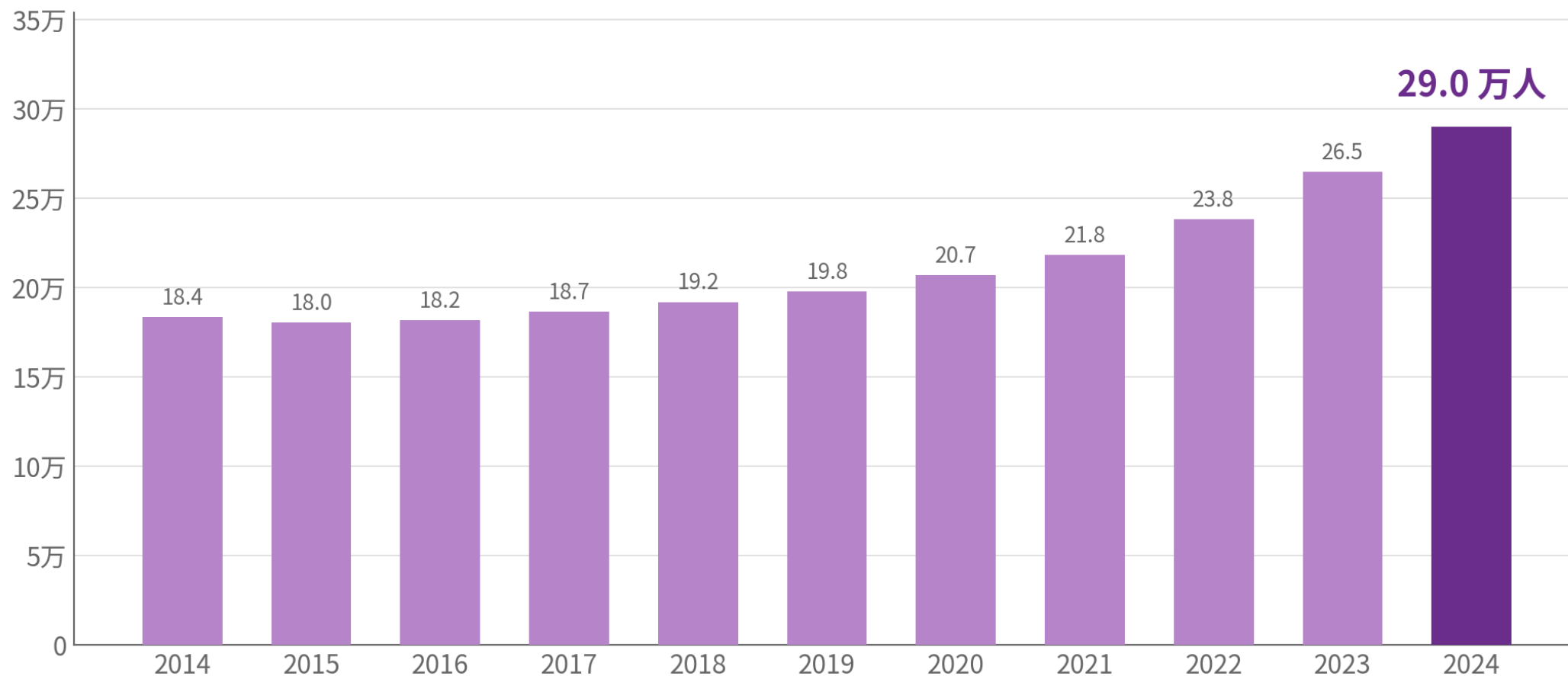
まとめ

DATA 01 小・中学校 不登校児童生徒数の推移



出典: 文部科学省「令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 小・中学校合計・単位は万人

DATA 02 通信制高校 生徒数の推移



出典: 文部科学省「令和6年度 学校基本調査」 通信制高校 生徒数・単位は万人

QUESTION 01

問い 1 — 学校のかたち

通信制を広げるか、
共同性を立て直すか

立場 A: 通信制と多様な学びの場を広げる

学校への適応を前提にしない

主張

- ・ 学校に通うことだけが学びではない
- ・ 多様な学びの場を制度として保障する
- ・ 通信制・フリースクール・在宅で学ぶ

根拠と効果

- ・ 35 万人の不登校児童生徒の受け皿
- ・ 高校生の 11 人に 1 人が既に通信制
- ・ 学校が合わない子の自尊感情を守る

立場 B: 学校という共同性を維持・刷新する

A さんも帰れる学校をつくり直す

主張

- ・ 学校は学習だけでなく、共同性の場
- ・ 同世代と共にいることの教育的意味
- ・ 学校を変えれば A さんも帰れる

根拠と効果

- ・ 共同性の喪失こそが不登校の遠因
- ・ 通信制が増えても問題は解決しない
- ・ 学校という形式そのものを刷新する

フォーム入力: 問い 1 の立場と理由

セクション 3 Q5 で立場を選択、Q6 で理由を記入

Q5・Q6

FORM

学校のかたちについて、
立場 A・B のどちらに重心を置きますか。
その立場を選んだ理由を書いてください。

選択肢

- A 通信制と多様な学びの場を広げる
- B 学校という共同性を維持・刷新する
- C 揺れている・決められない

▶ いまフォームに入力 第 5 回フォーム → セクション 3 / Q5・Q6 を記入

目安 2 分

学校のかたち、あなたはどちらに重心を置くか

立場 A・立場 B のどちらに重心を置いたか、理由を隣の人と共有する

1

A 通信制

- ・ 学びの場を広げる
- ・ A さんを救う
- ・ どう広げるか

2

B 共同性

- ・ 学校を立て直す
- ・ A さんも帰れる
- ・ 何を変えるか

3

揺れたところ

- ・ A と B の間
- ・ 両方取れないか
- ・ 現実の制約

▶ 話し合いタイム 隣の人と話してから、次のスライドへ

目安 3 分

教員のかたち

授業は得意な人が動画で担い、各校の教員は担任・チューターに専念するか
それとも、これまで通り各校の教員が授業も関わりも担うか

01

振り返り

02

事例

03

問い 1

04

問い 2

05

職業

06

まとめ

QUESTION 02

問い 2 — 教員のかたち

授業は動画、関わりは担任。
分けるか、一人で担うか。

立場 A: 授業と関わりを分業する

得意な人が授業を担い、各校の教員は関わりに専念する

主張

- 授業は得意な教員が動画で全国配信
- 各校の教員は担任・チューター・カウンセリング機能
- 内容の方向性は同じでも、個に応じた指導が可能

根拠と効果

- 授業の質を全国で標準化できる
- 関わり・伴走に人を厚く配置できる
- 遠隔だからこそ可能な個別最適化

立場 B: 一人の教員が授業も関わりも担う

これまで通り、各校の教員がすべてを引き受ける

主張

- 授業をする人が、その生徒の関わりも担う
- 教えることと見守ることは切り離せない
- 各校・各教員が自分の生徒に責任を持つ

根拠と効果

- 授業の中での発見が関わりにつながる
- 「自分の生徒」という当事者性が保たれる
- 学校という単位の独立性・多様性が守られる

フォーム入力: 問い 2 の立場と理由

セクション 4 Q7 で立場を選択、Q8 で理由を記入

Q7・Q8

FORM

教員のかたちについて、立場 A・B のどちらに重心を置きますか。
(下の 2 択と「揺れ」から 1 つ選ぶ)

Q8 その立場を選んだ理由を書いてください。

選択肢

- A** 動画配信で効率化、教員は少数精鋭
- B** 一人の教員が授業も関わりも担う(これまで通り)
- C** 揺れている・決められない

教員のかたち、あなたはどちらに重心を置くか

立場 A・立場 B のどちらに重心を置いたか、理由を隣の人と共有する

1

A 動画配信

- 授業は動画配信
- 関わりは担任・チューター
- 個別最適化が可能か

2

B 関わり厚く

- 授業も関わりも一人
- 当事者性が保たれる
- 教員の負担と質

3

揺れたところ

- 両方混ぜないか
- 対象による違い
- 何を引き受けるか

教員という職業

2つの問いから、第1回の授業と接続しますよ

01

振り返り

02

事例

03

問い 1

04

問い 2

05

職業

06

まとめ

2つの問いを重ねる

何を引き受け、何を譲るか

01

残したい: 教員という職業の核となる仕事

02

譲りたい: 他の存在(AI・動画)に任せる仕事

03

揺れる: 両方の問いを重ねたときに、自分が迷うところ

第1回の授業より: 教員とは何をする職業か

知識・関係・制度・効率の 3 つの対比で再考する

01

知識を伝える人なのか、関係を結ぶ人なのか

02

制度に従う人なのか、制度をつくる人なのか

03

効率化する仕事なのか、効率化できない仕事なのか

フォーム入力: 教員という職業の構想

セクション 5 Q9 自由記述

Q9

FORM

ヒント

2つの問いを踏まえて、教員という職業をどのように構想したいですか。何を引き受けたいかも書いてください。

第 1 回の
「教員とは何をする職業か」
にも戻ってみる

▶ [いまフォームに入力](#) [第 5 回フォーム](#) → [セクション 5 / Q9 を記入](#)

目安 2 分

一番揺れた問いは、どちらだったか

問い 1 と問い 2 のどちらに、より強く揺れたか。理由を隣の人と共有する

1

問い 1 学校のかたち

- ・ 通信制か共同性か
- ・ 制度・場・所属
- ・ 自分の揺れ

2

問い 2 教員のかたち

- ・ 動画配信か関わりか
- ・ 働き方・関係
- ・ 自分の揺れ

3

2 つを重ねて

- ・ 教員という職業
- ・ 自分の判断
- ・ 何を引き受けたいか

今日の考えをまとめます

教員になる前に、自分の中で言語化しておきたい 3 点

01

自分の中心:問1・問2 のどちらが、より強く揺れたか

02

残った問い:教員という職業について、まだわからないこと

03

試したいこと:担任になったら、まず何を引き受けたいか

フォーム入力:今日の授業を 5 項目で振り返る

セクション 6 Q10 リッカート 5 項目(5 件法)

Q10

FORM

今日の授業について、それぞれの項目はどの程度あてはまりますか。

5 件法(5 とても思う ～ 1 まったくそう思わない)。

5 つの項目

- ① 学校というかたちについて自分の立場を考えた
- ② 教員というかたちについて自分の立場を考えた
- ③ 制度・職業の問題として遠隔授業を考えた
- ④ 教員になることへの視点が得られた
- ⑤ 次に考えたい問いが見えた

▶ いまフォームに入力 第 5 回フォーム → セクション 6 / Q10 を記入

目安 3 分

フォーム入力:揺れ・深まり

セクション 7 Q11 自由記述

Q11

FORM

今日の授業の中で、自分の考えが揺れた・深まったと感じたことを書いてください。次回までに知りたい・考えたいことがあれば書き加えてください。

▶ [いまフォームに入力](#) [第 5 回フォーム](#) → [セクション 7 / Q11 を記入](#)

目安 2 分

フォーム入力: 授業への意見や感想

セクション 7 Q12 自由記述

Q12

FORM

今日の授業の内容、扱った題材など授業について、率直な意見を聞かせてください。

▶ [いまフォームに入力](#) [第 5 回フォーム](#) → [セクション 7 / Q12 を記入](#)

目安 2 分

FINAL

お疲れさまでした

また次回、皆さんの考えを聞かせてください

稲垣 俊介 / 山梨大学 教育学部 准教授